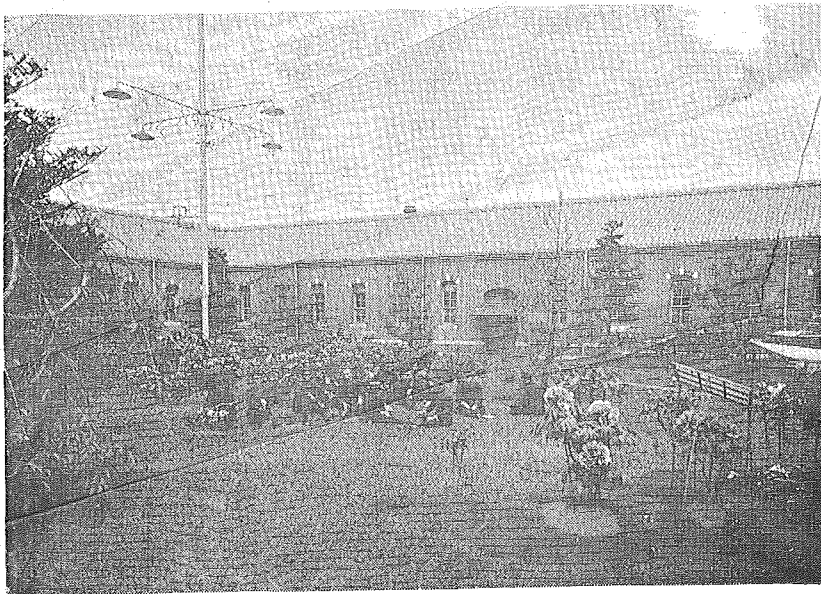


# 洛友会報

京都大学工学部室内会  
京都大学工学部室内会  
京電洛



今は無き中庭

写真は明治四十五年の牡丹会。学生は中庭の芝生に腰をおろして初夏を楽しんでゐる。牡丹の花は丹精こらしたげに美しく咲いた。平家の教室は継ぎ足されて二階建となり、中庭は潰されて増建されアンテナ柱と牡丹は姿を消してしまつた。のんびりと寝転んでいた中庭は、もう学生を結ばせることは出来なくなつた。外界から遮断された学生の庭は消えてしまつた。

## 總會にて 得るもの

第二回定時總會が東京にて開催され感懐裡に終始した。とかく總會と云えば無意味なものと考え取り扱われている。

「總會か」と囁んで吐き出すように言われるのを聞く。

我々の社会は何と云つても、その構成の細胞は人である。物質ではない。人と人との有機的結合によつて築いて行くもので、人と人との円満な接触、より多くの接触、よりよき人との接触を、より多く持つ者こそ人として生き甲斐のあるものと云うべきである。

こうした意味において洛友会の總會に出席することが、大いに人との接触が出来得る処が多い。ましてや出席者が同じ学窓を出ている先輩後輩ばかりで、或る点まで我儘が言えると言う喜びがある。

今回の總會でも、そうした場合が数多く見られた。

来年のことを言えば鬼が笑うと言うが、次の總會は京都で開催せられるので、より一層多数の参加を今から祈つてゐる次第である。

## エラクト問題を引き起こした

### クラス会の爲に

昭五 伊藤忠雄

私は本年八月、十月の二回にわたつて、本会報に論ぜられた「品位を保とう」と「エラクトに關聯して」の二論文を拜見して、一応尤もなお説と拜見したのであるが、他面そのクラス会の方々のために、こういうことが論ぜられたことは、洵にお気の毒と思うことも一入、深いものがあります。

その理由は、クラス会が開かれたという古文化財は、私の祖先代々から信仰して来た禪寺の一部で、同クラス会の幹事の方から紹介を依頼されて、お世話をした關係上、私も御招待を受けて、皆さんがどう云うことであつたかは、悉く知つてゐること、及び、私はそのクラスの会員でないから、説明が公正であるとして認められるので、二三の人々から真相を説明してくれと頼まれたことによつても御賢察願えると思ひます。

先づもつて、お蔭様で久々に二十四、五年もお会いしなかつた旧友と相会し大変愉快な二日を過ごさせていたゞいたことを深謝します。

思えば、そのクラス会は、小方丈と称する国宝建造物で行われまして、これは檜皮葺き御殿風の様式で昨年、数百万円の国費をもつて大修理が行われましたが、古来、高僧、貴顯がこゝに宿泊し法論を行つた由緒ある建物です。庭前には有名な枯山水が観られ、内部の襖絵は徳川中期の名作で洵に幽邃なお席であつた。

先づ午前十一時頃から慰靈祭が行われ、午後になつて学芸大の古文化の権威者、中村先生によつて、数時間に亘る流暢な解説があり、次第に

皆さんも古典的な情懷に駆立てられ、全く浮世の物うさを忘れ給うた禪士の姿にも見受けられたことは、今もつて目にその有様がちらついて

夜になつて、一風呂後、食會となり、それから翌朝二時頃まで、懐旧談に花が咲きました。翌日は苦寺、桂離宮を參觀して、全く意義深い二十五周年のクラス会を終えられたのであり、私もお世話の仕甲斐があつたことを非常に喜んでいました。

偶々、翌日になつて、寺の給仕人（私の知つてゐる近所の人）が親切に學数枚に焦げがあることを知らせてくれた。

私も責任上、幹事と連絡して早速、同道、寺院に赴き不始末を謝し、新しい學に取替えさせていたゞくようお願いし、先方も快よく諒承していただいた。

勿論、重要な文化財の大切なことは、会員一同よく心得て居られ、學を焦がす等は全くの不覚の至りで、この点については皆さんが心申し訳なく思つて居られるのであるが、幸なことに學を取替えた全修復されたことは、遺憾なくであつて、クラス会の方々の

にも御安心願ひたい。(四)末筆ながら、この會士ばかりで決して會うな無作法者御出づうか信ずる者確以上、二三の

私に是非を言



眞に取り上げては如何でしょう。電気教室の玄關の写眞も甚だ結構ですが、ときにはこんな写眞も紙面に近く感をもたせ、色ツばいものにするでしょう。

以上はもつともらしく令嬢同伴に對する効能をくどく述べましたがこれも種をあかせば私の悲願伸人百組の生んだ白屋夢、ゆめくたまされることのないように御注意下さい。

(ニッポン放送技術局次長)

### 隨想万才

昭二二川村 進

「人間は万物の靈長である」他の動物と異なる処は？「言葉」を以て意志の疎通を行うにあり」位は三つ子でも知つてゐることである。この妙味ある言葉というものが、如何に使ひ方がむつかしきかかと、つくづく思つた。

山村幹事さんから頼まれて、原稿を書いては見たが、さて清書をしようと思つて読み返してみると、何処のどいつが何という面をして、これを書いてたかと思ふほどの拙劣さ。書いては捨て、書いては捨て、かくすること四度。

とに角落友会の会報に出す原稿ですからな。

「読んでいて肩がこらず、面白くてみんなの爲になる、老いたるものにも、若きものにも」と言われてゐるような気がして。

いつそのこと京都大学の電気なんかやめて、万才にでもなつていたらなあと思つて見たが、おつとどつこいそやなりや京大に縁がなくなつてこの原稿を書く資格がおませんでしたね。

がら面白く聞くと、たが、十錢では聞かただけで万才の會は教えてくれなかつた。その筈である。教えてくれなかつたら、万才屋の商売が出來てしまふ。

私は大学の寄宿舎にいたので、毎年一回行われる寮の記念日に、アチヤコそのけ名万才を演じた役者を思い出す。その人が投稿してくれたら、さぞかし落友会も引きたつたらうと固く信じてゐる。その人は現に関西で、敏腕を揮つておられるが、下に名前を秘す。だが自発的に書いて下さらないと、そのうちに名指しをしますよ。

私は落友会の会員が、万才や落語家のように面白く寡黙気の中に、互に隔ての垣根を取外して、ザツクバラにどしどし／＼思つたことを御投稿下さい（一度書いて出すと、この次はもつとよいものが出来る。これが進歩の秘訣である。進歩のチャンスをお逃さぬように）お台所がのぞけるような気安さで、互に相勵まし、相倚つて敗戦日本の再建に御盡力されんことを切に望む。

### 第一回 落友会總會の記

#### 第二一回

昨年京都で開かれた第一回總會の席上、總會は隔年毎に支部所在地で開くこと、次年度開催地は東京と決定したので、本年度は東京支部の多大の斡旋で十一月二十日は皇居並に新宿御苑拜謁、同午後には明基並に麻雀大会を、二十一日は日黒雅叙園で總會並に選擧會を開催し、二十二日は相模リソクで大會を開き、皇居並に新宿御苑の拜謁は家族連れの申込みで二〇名でありました。

めげず参加した結果、役員は再選と決しました。

は見頃増加するに菊栽培三志年面迎ふオソリテの説明あり、心行くばかり觀賞下さい。その他の行事については別項御覽下さい。

總會は出席者一〇名で、定期的に司會者工藤幹事より開會を述べ、先づ鳥養會長議長となり開會の辭があつた後、山村幹事より第一号議案昭和二十九年事業並に決算報告（別項記載）をした。加藤副會長は會計監査の結果、この決算及び財産内容の正確なことを述べ、満場拍手裡にこれを承認した。次いで乙葉東京支部長より推薦會員たるべき関野弥三氏が名簿に脱落しているとの質問があり、これに對する諸議な応答は満場を一層なごやかな気分にした。

第二号議案は会則一部変更で落友会は昭和二十七年十月一日に発足したもので、従つて会則第十三条には會計年度は毎年十月一日に始まり翌年九月三十日に終るとなつていたのであるが、これは矢張り一般と歩調を合せ、會計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終ると改正した方が都合がよいので、そのように変更するとの提案であつたが、これも満場異議なく可決された。

第三号議案は役員改選の件で、議長これを附議したところ、これに對し議長指命の詮衡委員を設けそれに一任せよとの動議あり、これが成立して左記の諸氏が指名された。

- 東京支部 大西冬藏、交川 有、吉岡俊男
- 関西支部 佐藤一男、西枝一江
- 中部支部 中津川道雄、中津川道雄、中津川道雄
- 華北支部 藤田金太郎、藤田金太郎
- 華南支部 藤田金太郎、藤田金太郎
- 華東支部 藤田金太郎、藤田金太郎
- 華西支部 藤田金太郎、藤田金太郎
- 華南支部 藤田金太郎、藤田金太郎
- 華東支部 藤田金太郎、藤田金太郎
- 華西支部 藤田金太郎、藤田金太郎

再び、佐藤委員長より詮衡委員は慎重審議の結果、会則第十條には重任を妨げないとの案から役員は再選と決した旨報告あり、議長これを諮り満場拍手裡に可決した。會議はこれにて終り、次いで鳥養會長の重任の挨拶があり、引き続き鳥養先生の感銘深い講演を拜聴した。總會を終り、時間の余裕を利用して松田教授から「教室の現況」の話があつた。

一同記念撮影をして觀衆會場に移つて大いに歡を共にした。

### 昭和二十九年 本部事業報告

落友会々員は九月三十日現在で卒業生總數二、一八〇名、内居所判明者一、七三〇名、不明者九〇名、物故者三六〇名でありまして、何とかしてこの不明者を皆無にしたいと努めております。

本年度におきまして昨年十月二十六日に九州支部が結成され、支部長には福井正治氏が選ばれました。次いで十二月一日に中国支部が誕生いたしましたして支部長には真田安夫氏が選ばれました。

本年になりまして五月六日に北陸支部が結成され、支部長に高木金生氏が就任され、また最近十月十日には北海道支部が誕生いたしましたして支部長には大家徳雄氏がなりました。

長始め諸先生の御出席をお願いいたし、益々落友会々員相互の親睦を図ると共に将来の發展を期したのであります。以上簡単ながら御報告いたします

### 昭和二十九年 收支決算

自昭和廿八年十月一日 至昭和廿九年九月卅日

一、収入の部		金額
科目		
会費	収入	三〇六、〇〇〇
本年度会費		三〇六、〇〇〇
過年度会費		一、〇〇〇
前年度繰越金		三、七〇〇
預金	収入	六、五〇〇
雑	収入	一、〇〇〇
合計		三二八、二〇〇
二、支出の部		金額
科目		
刊行	物費	一六、三〇〇
會報	編集費	一、〇〇〇
會報	印刷費	五、〇〇〇
會報	送費	八、〇〇〇
諸	費	二、七〇〇
備	品費	三、三〇〇
會	合費	三、〇〇〇
總	會費	五、〇〇〇
會費	集金費	二、〇〇〇
諸	掛費	六、〇〇〇
旅	費	六、〇〇〇
合計		四六、八七五
差	引	残
預金	及び現金	
定期	預金	一〇〇、〇〇〇
普通	預金	一、〇〇〇
振替	貯金	一、〇〇〇
当座	残高	一、〇〇〇
現	金	一、〇〇〇
合計		一〇三、〇〇〇





皇居拜観から新宿御苑へ観菊の途に二重橋前で撮影された写真。背景にして賑やかな裡にパチリとシャッターが切られるだけで田舎出のような心安さがあった。若い会員と見えて年寄りの講中と言った感じだ。

### 豫算

自昭和廿九年十月一日  
至昭和三十年三月卅一日

一、収入の部	金額(円)
科 目	
会費 収入	19,400
廿九年度会費	10,000
廿八年度会費	10,000
繰 越 金	4,400
預金 利子	5,000
雑 收 入	10,000
合 計	66,800
二、支出の部	金額(円)
科 目	
刊行 物費	35,000
名簿編集費	10,000
名簿印刷費	10,000
名簿送費	10,000
会報編集費	10,000
会報印刷費	10,000

### 諸 費

金額(円)	
備 品 費	10,000
合 計	10,000
総 会 費	10,000
会費集金費	10,000
諸 掛 費	20,000
旅 費	20,000
予備 費	15,000
合 計	100,000

### 懇親会の記

懇親会が終つて日本座敷の懇親会場に移る。今日の佳き日を二十八組の結婚式を取り扱つた雅叙園が野郎ばかりの会に何の興味があるうかと咳か會員もあつた。  
白布輝く散卓に落ち着く。山村幹事が司会する。財...

で御馳走を喰わせるとか酒を飲ませるとか一言も云わない。こつそり聞くと一人当り銚子一本、ビール半本だけの事。  
係副会長最尊筆頭取及歳と乾杯し中華舞臺舞臺を打つ。紫煙濛々と湖岸風景が籠む。やがて重い腰をあげて山村幹事が幾度となく指名した跡を拾つてみると次の通りだつた。  
正木 知巳 昭一二 昨日の閉会大会の報告。関西側の参加がなかつたことをなげく。(陰の声。本人は四段と言われているが本当は剛らぬ)  
老田他四郎 昭二〇 昨日のマージャン大会の報告。大きな表を掲げて戦績を語る。(やめてくれと敗戦者らしい會員の声が揚つた)  
多田 耕象 明三七 大正元年から東京に住んでいる。大正三、四年頃、卒業生が集つて落友会という名前を使つていた。高橋、清水、寒川などが世話をしてくれていた。大正末から学士会館で図書会を開会したが、それは大正六、七年が中心となつて働いてくれた。  
一本 松珠 大三四 閉基は五段なので私が基の会に出席すると賞品をさらう事になるから遠慮して欠席した。ゴルフの方は奮闘して最高賞を取る予定だが急用出来て明日のゴルフ会に出席出来ないのは残念だ。  
鳥養先生の話に因んでだが、我が関西電力ではビルマの留学生二名を世話することになつた。  
又我々は十四日会を毎月電気クラブで開催している。主として小宮が世話してくれている。当日御来阪の機会があれば来会を歓迎する。

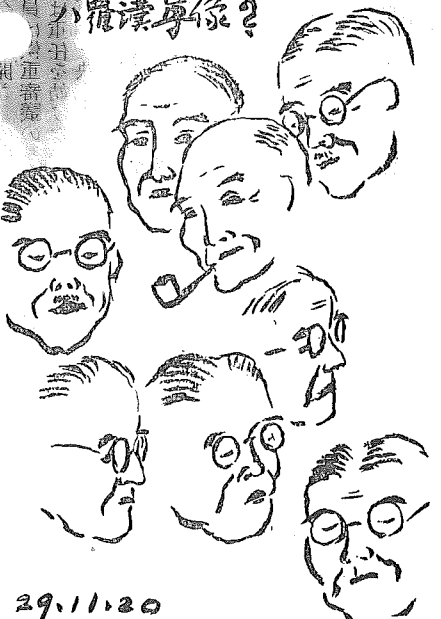
### 明治クラス会

ことをなつた。彼は京都府で下さる鳥養先生を待たせ、先生は仲々見えぬ。発車近くなり気が滅びたのに、ふと気が乗る。鳥養先生が急ぎで行つて見ると鳥養先生が急ぎで話していられた彼はペコンと頭をさげて遅くなつた理由を述べた。すぐ汽車は出る。福永さんは、その位の奴がよからうと採用決定。彼は福永さんの姿が見えなくなるまで感謝のお辞儀をしたという。今の就職の六ヶしは嘘のようだ。

乙葉 眞一 大七、東京の落友会は筑木、松尾が中興の祖だと賞める多田さんが開祖。多田さんだけ若い者を設けられたことを勧められ説書会を設けられた。  
永出 夏孝 昭七 会員を多く擁しているのは関電の次は電々公社だといふ。  
久保 久雄 昭八 リーダーとなり校歌を歌うといふ。そして「祇園小唄」を唄い出す。(會員一同手をたいてこれに和した)  
松本 久長 大九 明日のゴルフ会の世話人としてその案内説明。

総会をよいついでに明治連中が寄つて見ようと集つたのが多田耕象、国友末藏、宮井誠吉、高橋保、滝口三雄、大森丙、佐藤雅、佐藤穩徳の八名(出席率一二%)急の差支えて来れなくなつた教員はもとより色々の事情で来れぬ多くの諸氏から親しき懐しさのこもつた言葉が寄せられてこれも話の花となつた。集つた面々午前の拜観に疲れも見せず、それほど降る雨の中を元気にやつて来た。

### 明治クラス会 罹漢辱像?



29.11.20

橋本 眞吉 大一四 我等のクラ  
スの富永がビール王コンクールに出  
場。九州ブロックで優勝したが、東  
京で優勝者のコンクールでは惜しく  
も第三位となった。(隣の声。ビ  
ル半本のおしきせが思い出させた話  
ではなからうか)

園友 末藏 明三九 この下に家  
ありという雪の深い高田に住んでい  
る。うつつかりすると名簿に物故者と  
書かれるので生きている印に総会に  
は毎回出席している。今後も出席す  
る。洛友会に来て一つ威張れること  
がある。それは電燈五十年祭がアメ  
リカで行われたとき、自分は渡米し  
て祭典に参列し、エヂソンと握手し  
たことである。これは威張つてもよ  
からう。

松尾 三郎 昭一三 役所から民  
間会社に飛び出した。家内ですてた  
恩給額を聞き今更ら驚かされた。  
斯くて話は盡きないが、時間は盡  
きて来た。

多田さんの音頭で洛友会の万歳を  
三唱して会を閉じた。外に出ると初  
冬の空気が冷たく頬を打った。

懇親会出席者名簿

- |     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 明三七 | 多田    | 耕家    |
| 三九  | 国友    | 末藏    |
| 四三  | 滝口    | 三雄    |
| 四四  | 大森    | 丙     |
| 二元  | 鳥養利三郎 | 佐藤 穩徳 |
| 二   | 宮崎 駒吉 |       |
| 三   | 長島 正隆 | 川崎 圭三 |
| 四   | 真崎 倫忠 |       |
| 五   | 伊沢 辰雄 |       |
| 六   | 大西 冬藏 | 山村 忠行 |
| 七   | 久高 将吉 | 松田長三郎 |
| 八   | 加藤 信義 | 工藤 寿男 |
| 九   | 阿部 清義 | 佐藤 一男 |
| 一〇  | 堀岡 祥平 | 間崎 龍夫 |
| 一〇  | 池内 正家 | 菅 琴二  |
| 一〇  | 池内 景憲 |       |

- |    |        |         |
|----|--------|---------|
| 二二 | 山口     | 池田 経喜   |
| 二一 | 小森     | 七戸鹿之助   |
| 二〇 | 大内 三   |         |
| 一九 | 幸前 三   |         |
| 一八 | 本多 静   | 田中 良知   |
| 一七 | 菊地 保次  | 美松 義一   |
| 一六 | 伊野野 太郎 | 一本 松 義一 |
| 一五 | 岡本 一郎  | 橋本 康 工  |
| 一四 | 樋口 竹太郎 | 橋本 康 工  |
| 一三 | 山崎 善雄  |         |
| 一二 | 瀬川 為三郎 | 奥原 芳登   |
| 一一 | 飯村 辰雄  | 平井 寛一郎  |
| 一〇 | 山崎 武夫  | 小宮 義和   |
| 九  | 交川 有   | 内田 幸夫   |
| 八  | 難波 穂   | 山 忠文    |
| 七  | 岩本 章   | 山 忠文    |
| 六  | 久野 清   | 安 清     |
| 五  | 内藤 猛   |         |
| 四  | 真壁 昌一  | 平 清     |
| 三  | 足立 昌一  | 佐竹 金次   |
| 二  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 二〇 | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一二 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一一 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 一〇 | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 九  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 八  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 七  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 六  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 五  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 四  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 三  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 二  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 一  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 二〇 | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 二〇 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一九 | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 一八 | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 一七 | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 一六 | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 一五 | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 一四 | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 一三 | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一二 | 田中 幸男  | 熱田 勤    |
| 一一 | 正木 知己  | 松尾 三郎   |
| 一〇 | 平田 稔   | 平田 宰造   |
| 九  | 井上友一郎  | 高田 昇平   |
| 八  | 喜多村 茂彦 | 石川 弘文   |
| 七  | 浦生 朝郷  | 久保 久雄   |
| 六  | 浅井 光枝  | 古賀 学一   |
| 五  | 永田 良孝  | 吉岡 俊男   |
| 四  | 仲 政平   | 吉岡 俊男   |
| 三  | 藤田 進二郎 | 石垣 梯次   |
| 二  | 藤田 真   | 足立 卓夫   |
| 一  |        |         |

